

本校の生徒の話を外部の方には・・・

平成21年10月7日

「たとえご父兄がご了解して頂いたとしても、本校の生徒の話を外部の方には話せませんので、本校に来られても・・・」と、私は初めて学校訪問を電話で断られてしまった。平成13年7月20日のことだった。相談は同年6月19日に入った。H中学校2年生、男子生徒（当時13歳）の不登校の相談だった。桜の舞う中、希望に胸を膨らませて迎えた中学校入学式の翌日から学校に行っていない。本人も同席していたので、詳しい話は徐々にということで、本人の希望でとりあえず週2日各2時間、英語を指導することにした。その合間に母親（当時40歳）に何回か来て頂き、彼の話をついた。

彼が2歳の時、両親は離婚し、母方の祖父母（当時78歳と72歳）と一緒に住んでいる。一人っ子である。その後、実の父親は再婚したので、彼は3回しか会ってなく、また彼も会いたくないときっぱり言っていると言う。心理テストを採ったが、AC（いい子ぶりっ子性）が一番高く、CP（頑固親父性）とFC（やんちゃ性）が低い。即ち、自己主張もせず、感情を押し殺して遠慮がちで、周りの自分への見方を異常に気にする典型的な不登校であった。しかし、NP（お節介お婆さん性）が高く、非常に世話好きな優しく、大人しい子だった。祖父母とももうお年もあり、大変優しい人だと言う。父性が十分に働いてない中で育った彼は、楽しいはずのだった入学式の日、ホント生まれて初めて担任の男性教諭に大声で怒られ、学校が怖くなってしまった。と言うのは、入学式を終え、初めて中学校の教室に入り、数人の友達とはしゃいでいた。その時、後ろから「おい！」と声を掛けられた。彼は友達だと思って、「うるせいな～！」と言って振り向いたら、なんと担任の先生だった。「うるせいとはなんだ！うるさいのはお前だ！」と、その男性教諭にきつく叱られた。彼は初めてこんなに大声を出して叱る男性と向かい合い、大変な恐ろしさを覚えたと言う。2年生になってもその先生が担任で、それがために彼は学校に行けないでいる。しかし、母親は彼にも非があったし、彼もそのことは言わないで欲しいとの希望もあり、これまでそのことは学校に言えないでいると言う。私はその誤解を解くために、その学校に面談を申し込んだ。しかし、当時はまだ個人情報云々は強く騒がれてない時だったが、冒頭の言葉通り、学校の門は閉ざされてしまった。

このことを知った当時私の元に取材に来ていたテレビ静岡報道部が、その翌月8月19、20日に行われる、三宅島の子供たちと不登校の子供たちを交えた下田でのカヌー体験交流合宿に、事前の取材と同行取材を申し込んでくれた。即ち、テレビ静岡報道部が、夕方のニュース番組で当フォーラムの活動を紹介し、学校の理解を求めようとして協力頂いた。8月下旬、約10分位の映像報道だったが、大変な反響だった。しかし、H学校からはその後も何の連絡もなく、彼の不登校は2年生の終わりまで続いた。約9ヶ月の対応で、CPは25から80まで成長し（最高100）、FCも40から75まで成長し、授業復帰の

準備は整った。しかし、ACは相変わらず100で、改善の糸口は閉ざされたまま、経済的な理由もあり、我々の対応は終わった。